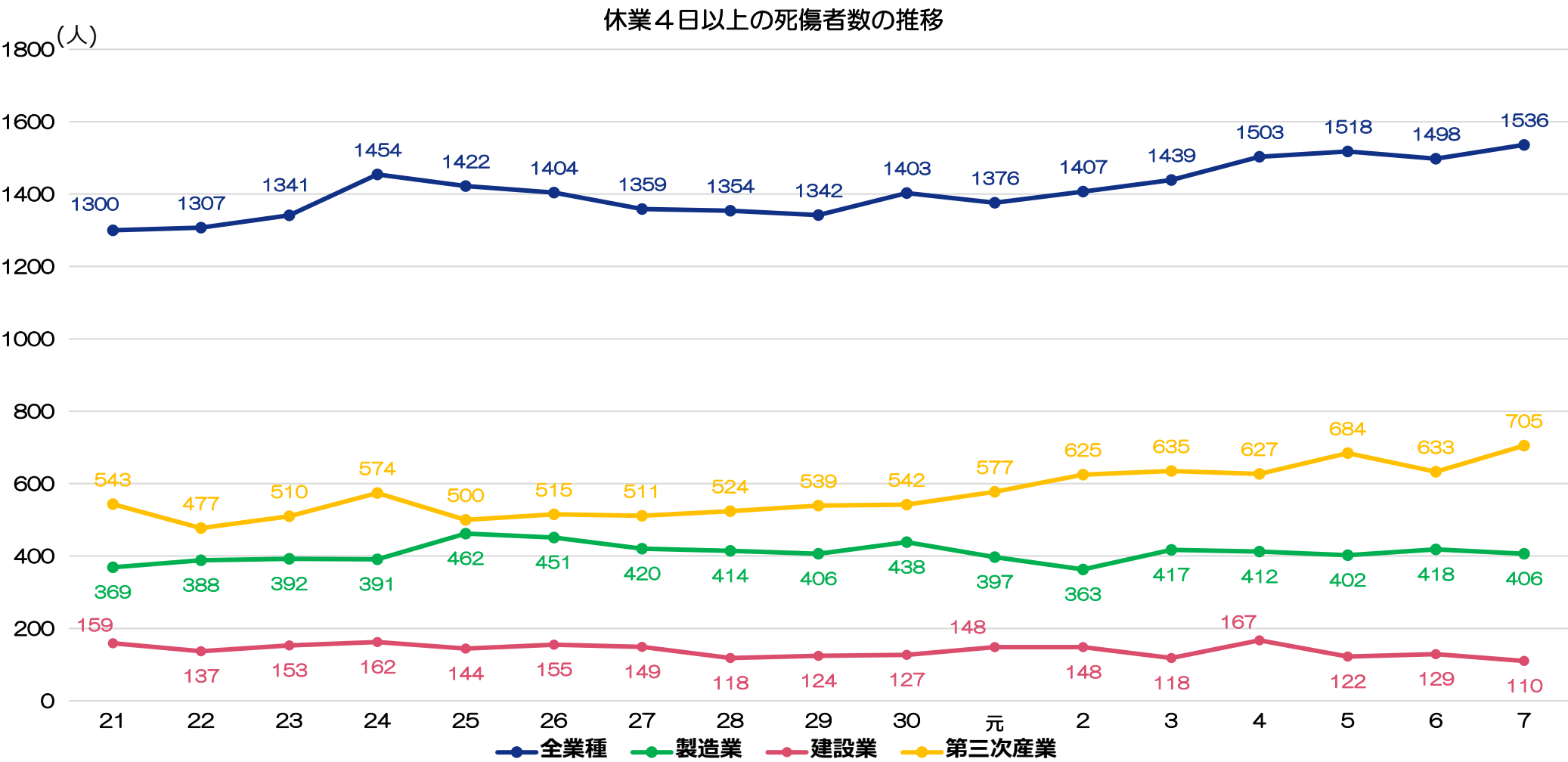


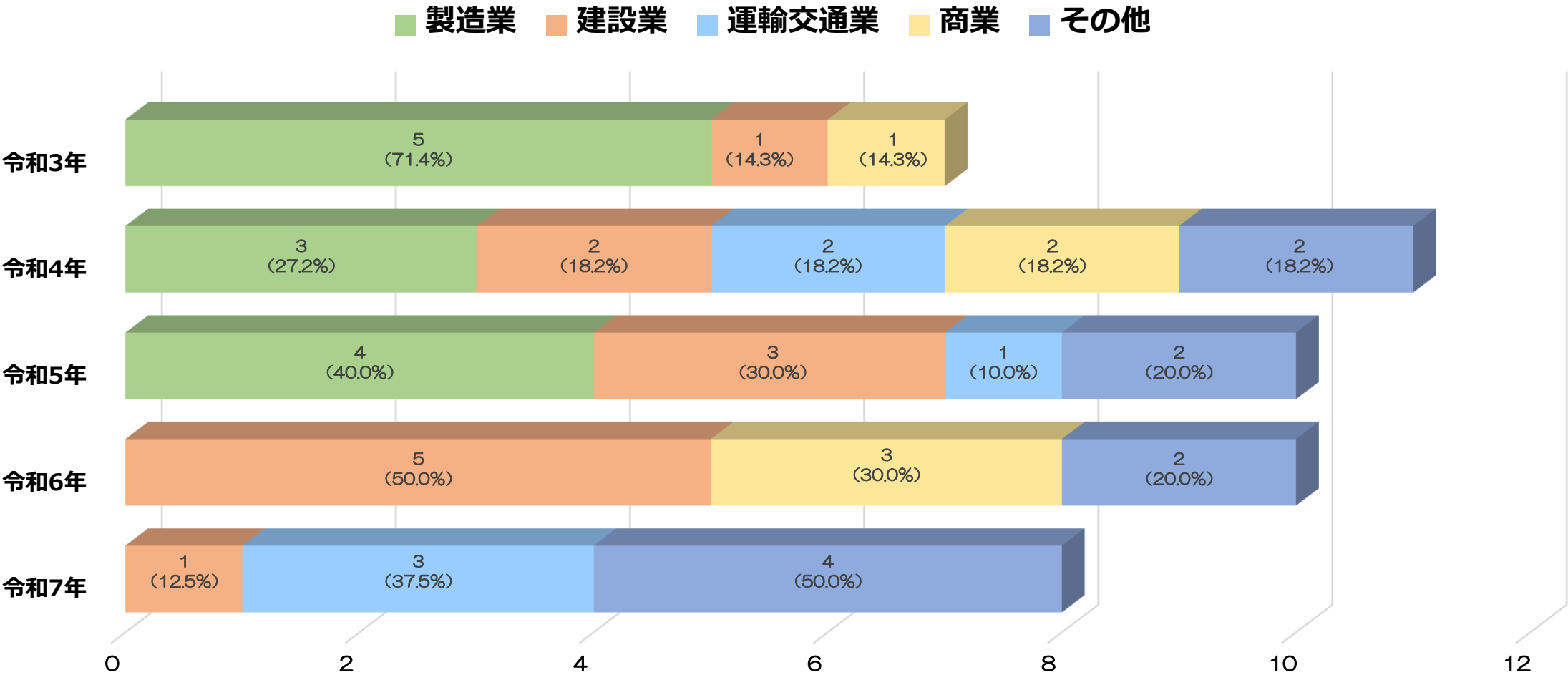


労働災害発生状況について

休業4日以上の労働災害発生状況(滋賀県)

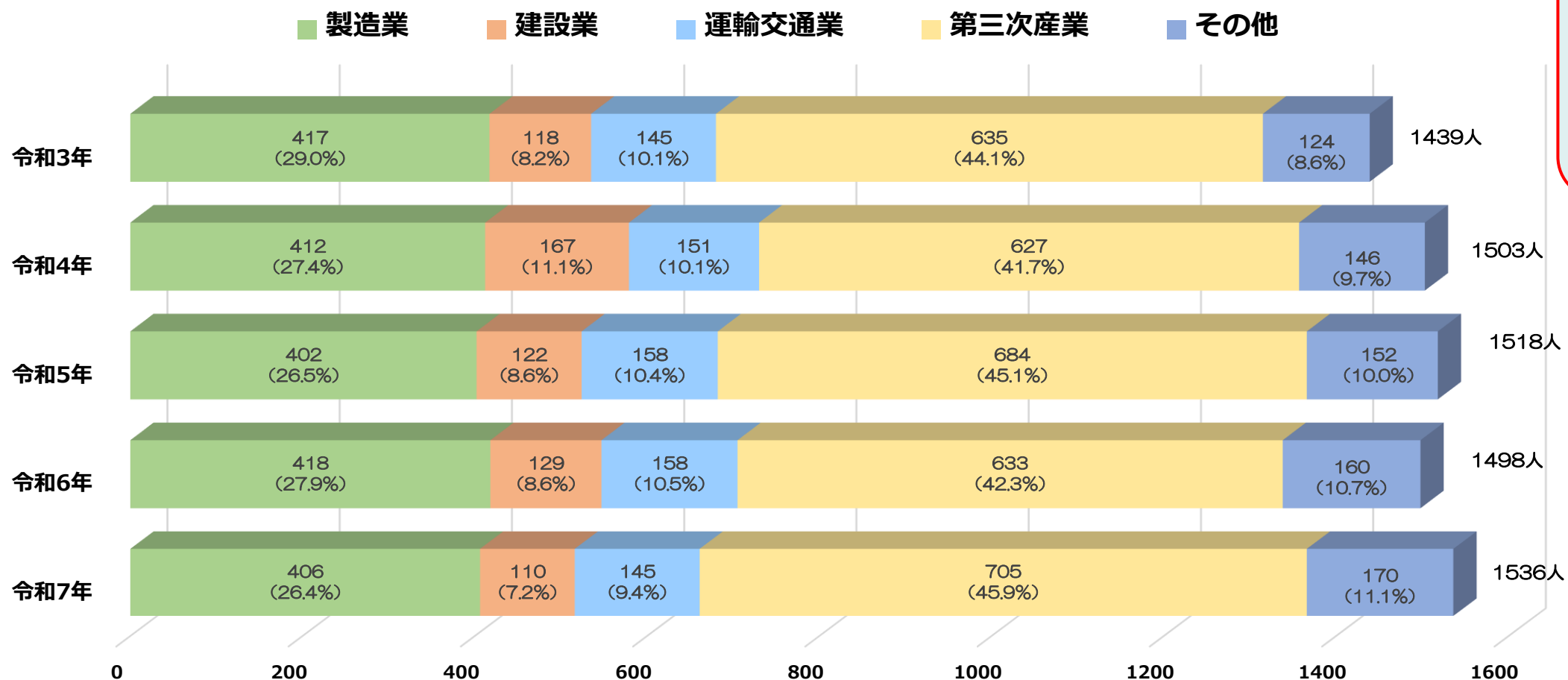


業種別の労働災害発生状況(滋賀県)



労働災害の発生状況

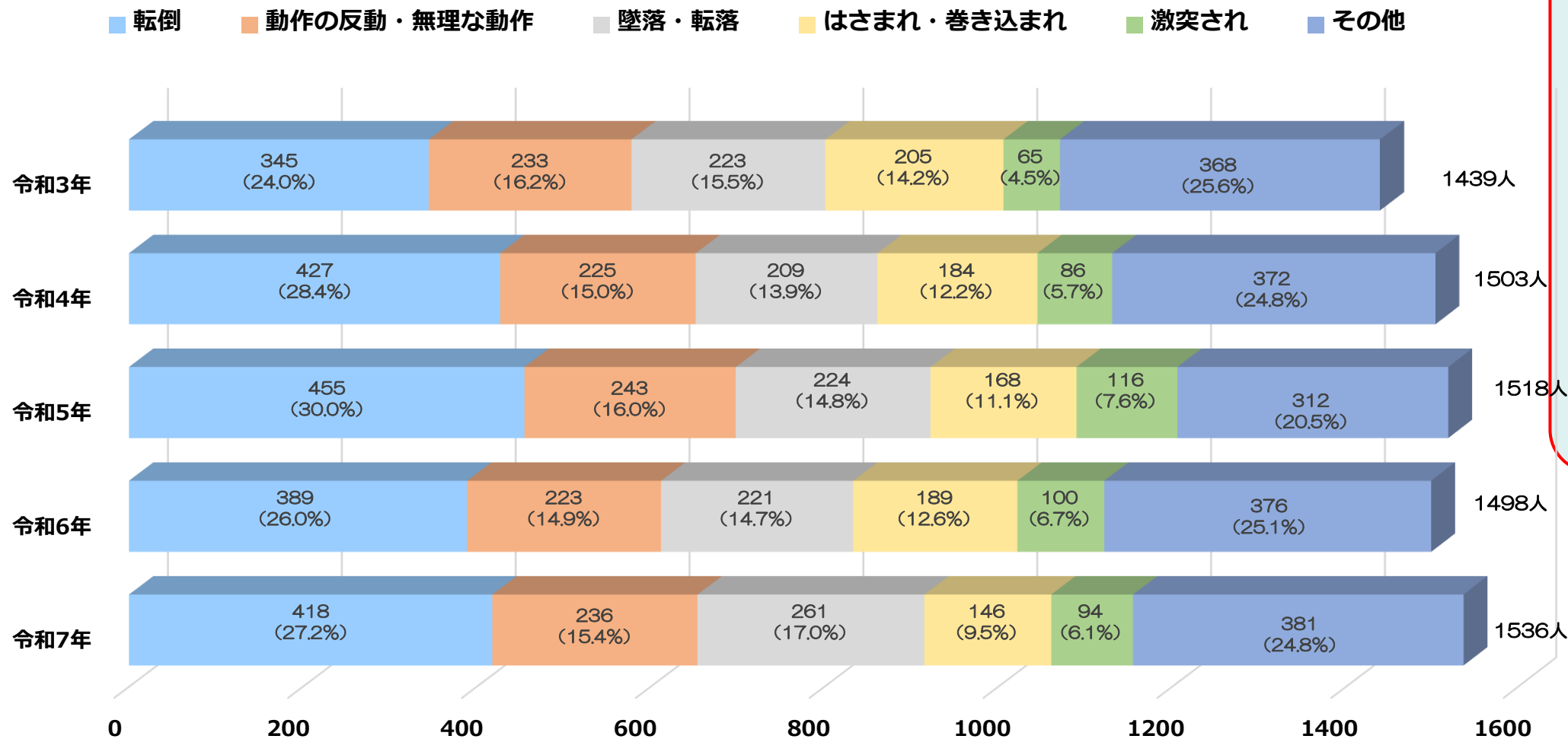
業種別の労働災害発生状況(滋賀県)



業種別にみると
いずれの年も
第三次産業
が4割以上を
占めている。

労働災害の発生状況

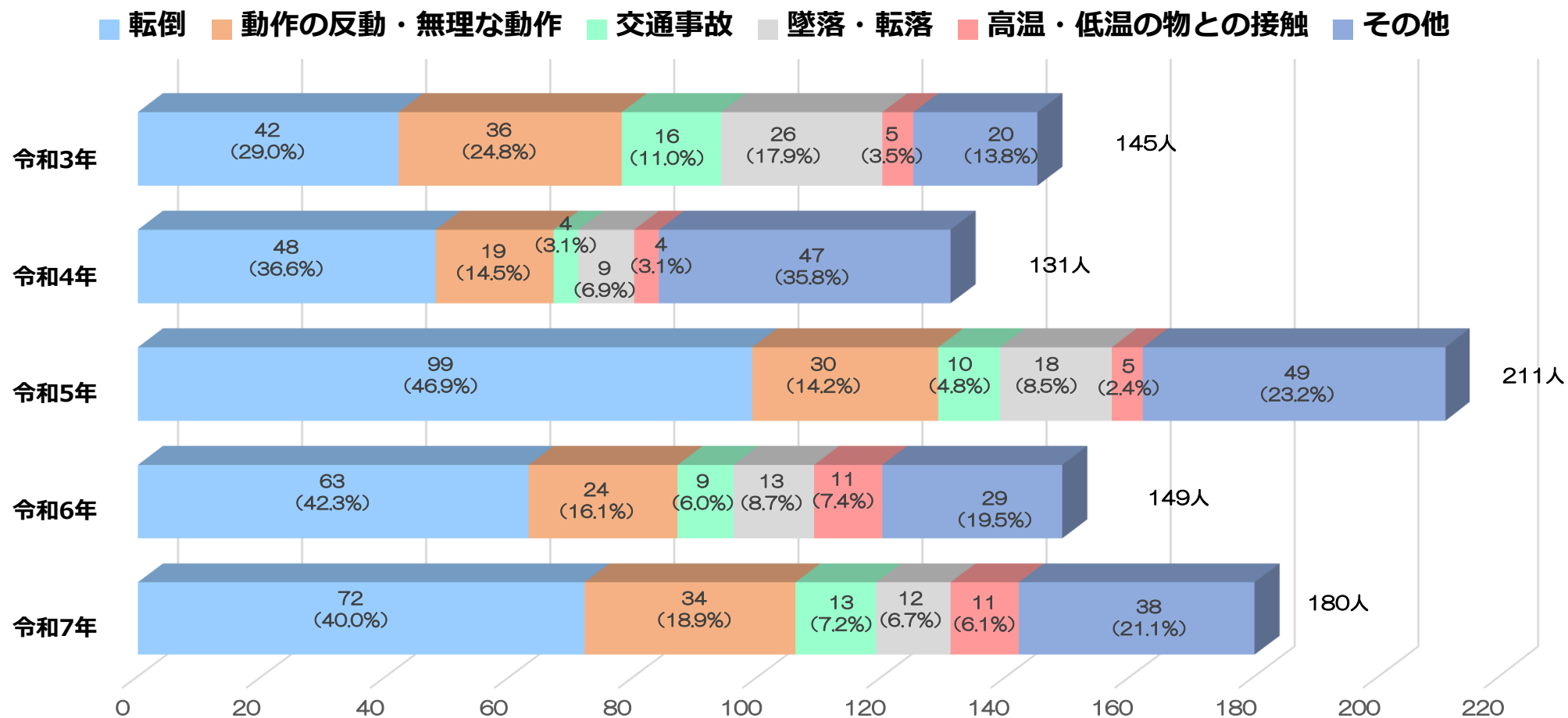
事故の型別の労働災害発生状況(滋賀県、全産業)



転倒と動作の反動・無理な動作を合わせるといずれの年も全体の約4割を占めている。また、墜落・転落も大きな割合を占めている。

労働災害の発生状況

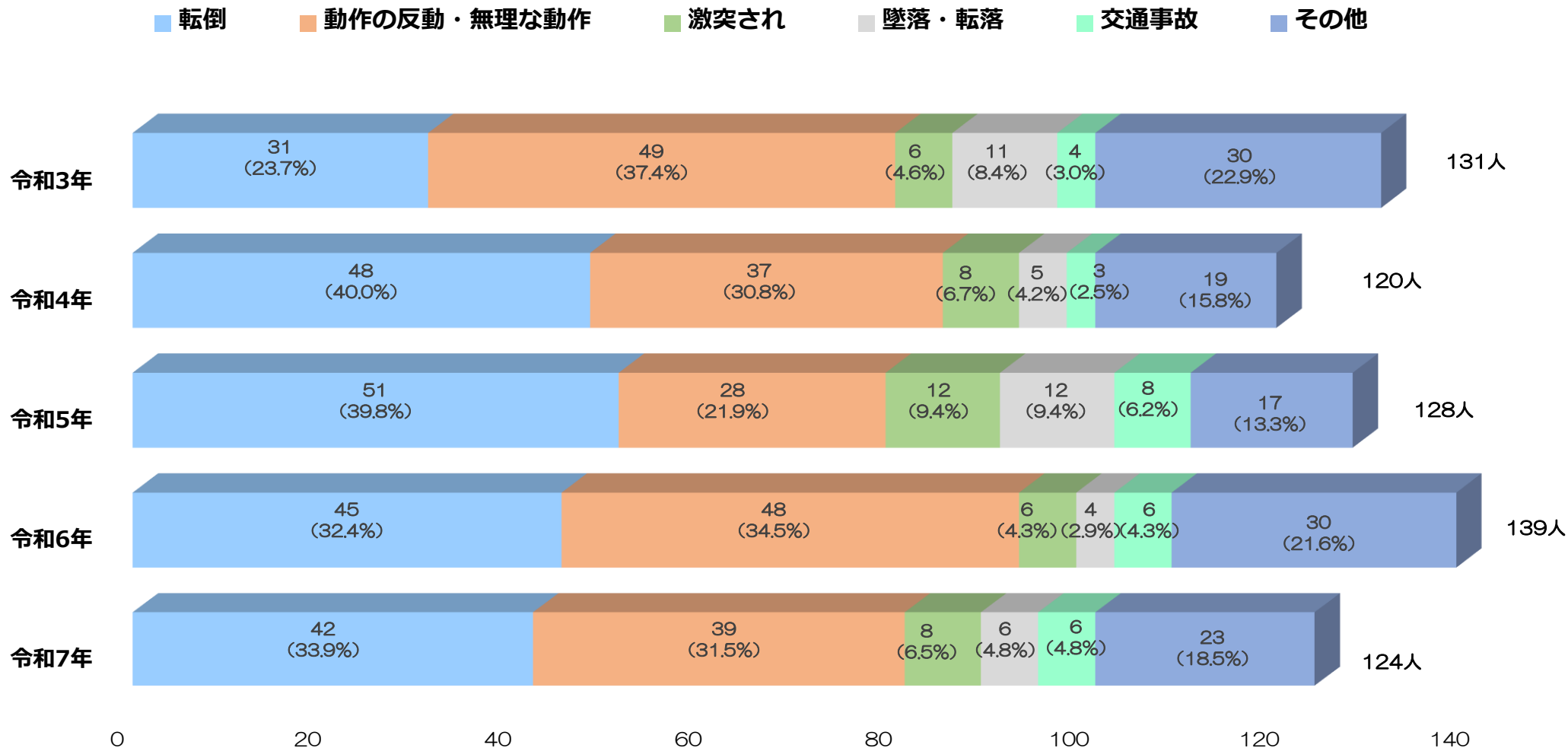
事故の型別の労働災害発生状況(滋賀県、小売業)



転倒災害の割合が全産業と比較しても上がっており、動作の反動、無理な動作と合わせると5割以上を占めている。

労働災害の発生状況

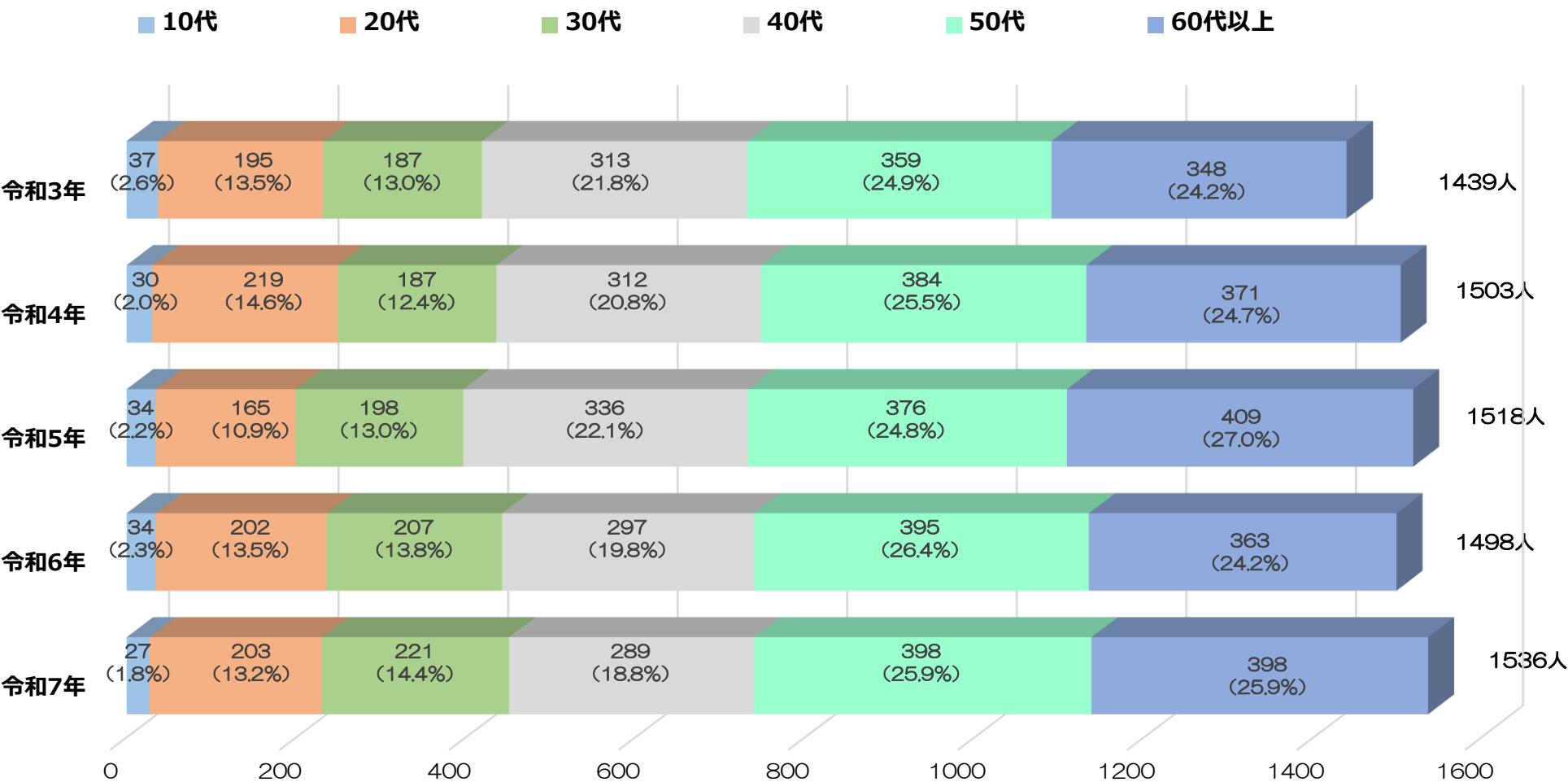
事故の型別の労働災害発生状況(滋賀県、社会福祉施設)



小売業同様に
転倒災害の割合が高いが、
それと同程度の割合を動作
の反動、無理な動作が占めている。

労働災害の発生状況

年代別の労働災害発生状況(滋賀県、全産業)



いずれの年も
40代以上の
死傷者数の割
合が7割以上
を占めている。
さらに60代
以上だけでみ
ても全体の約
4分の1を占
めている。

労働災害の発生状況

年代別の労働災害発生状況(滋賀県、小売業)



全産業と比較して60代以上の占める割合が高くなっており、いずれの年も3割を超えている。

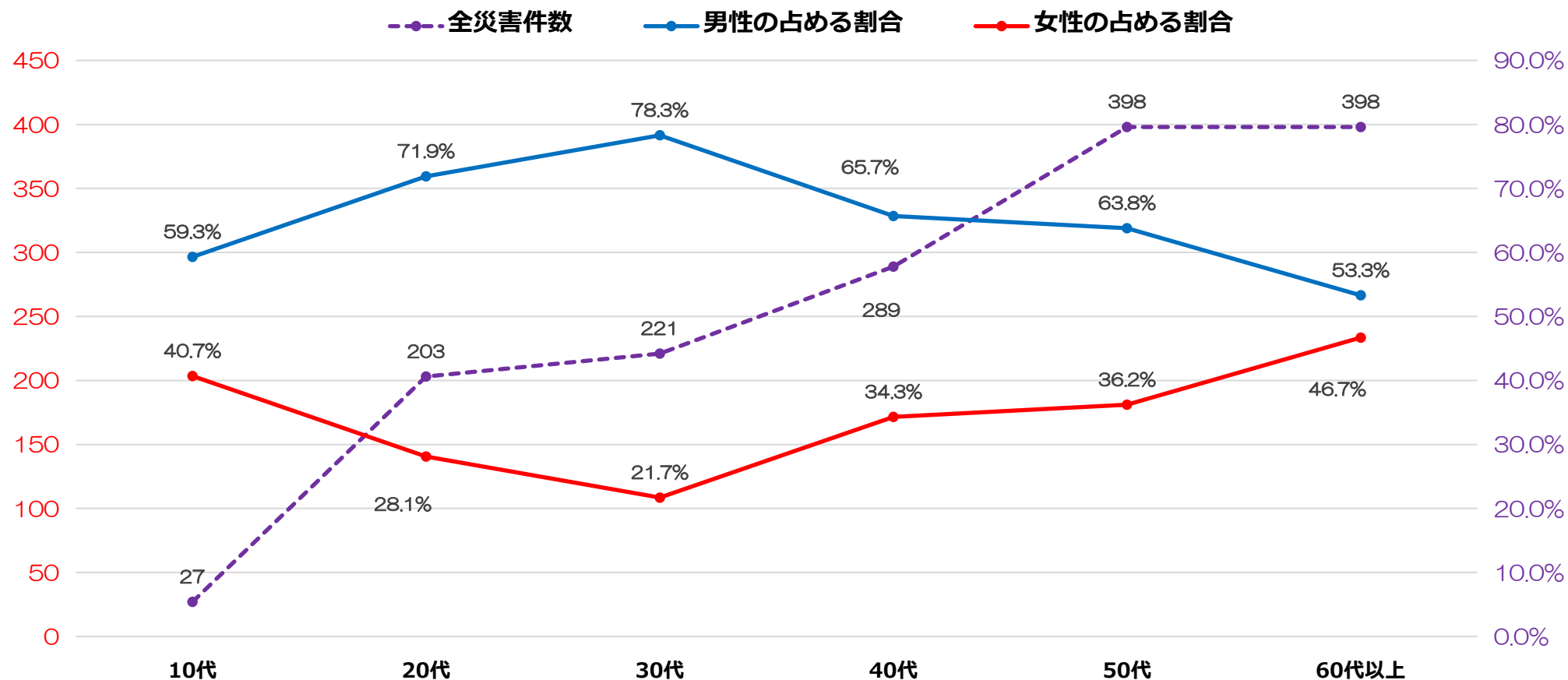
労働災害の発生状況

事故の型別の労働災害発生状況(滋賀県、社会福祉施設)



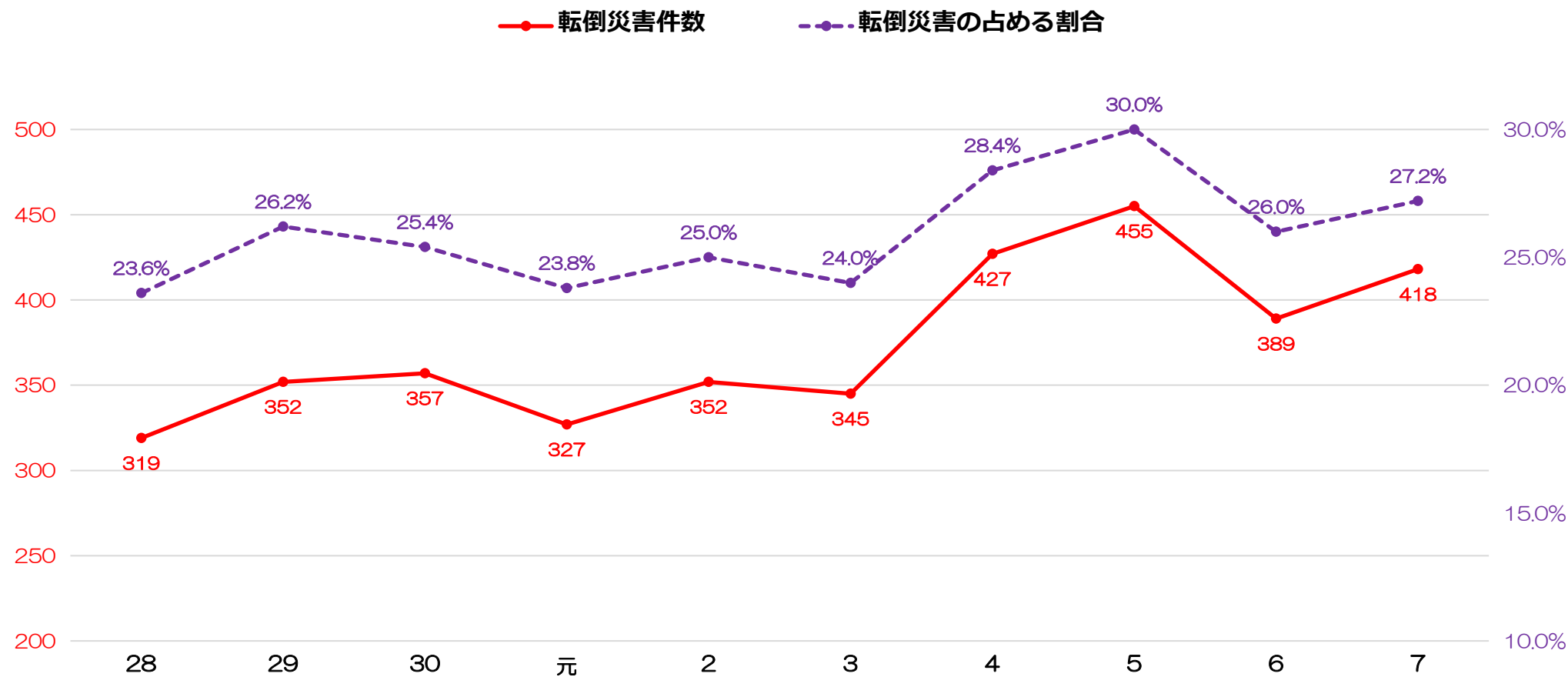
小売業と同様
60代以上の
占める割合が
高くなっており、
いずれの
年も3割を超
えている。また、
一部当ては
まらない年
はあるが、概
ね年代が高
くなるにつ
れて全体に
占める割合
が高くな
っている。

令和7年の年代別災害件数と性別の割合(滋賀県)



全業種の災害件数は50代、60代が最も多くなっているなか、男女別の割合は、男性は30代をピークとしそれ以降は割合が減少している一方、女性は30代が最も少なくそこから年代が高くなるほど災害割合も増加している。

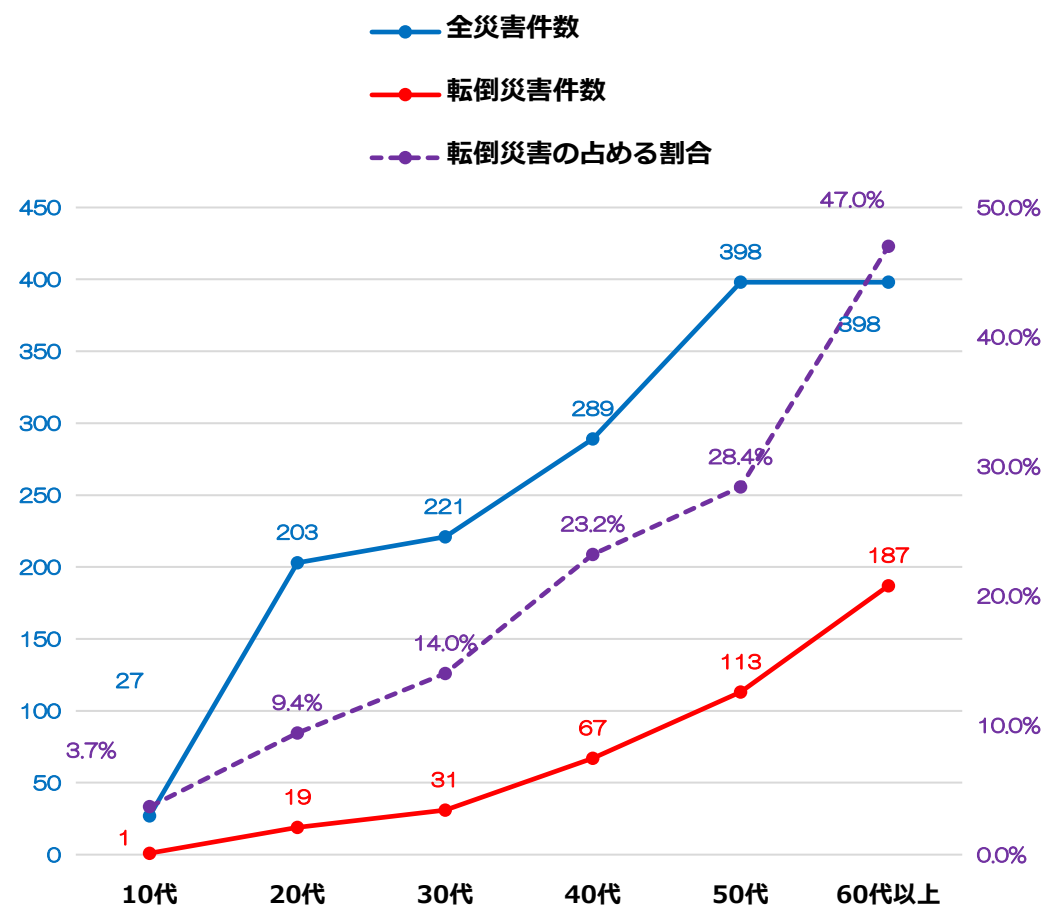
転倒災害の発生数と全体に占める割合(滋賀県)



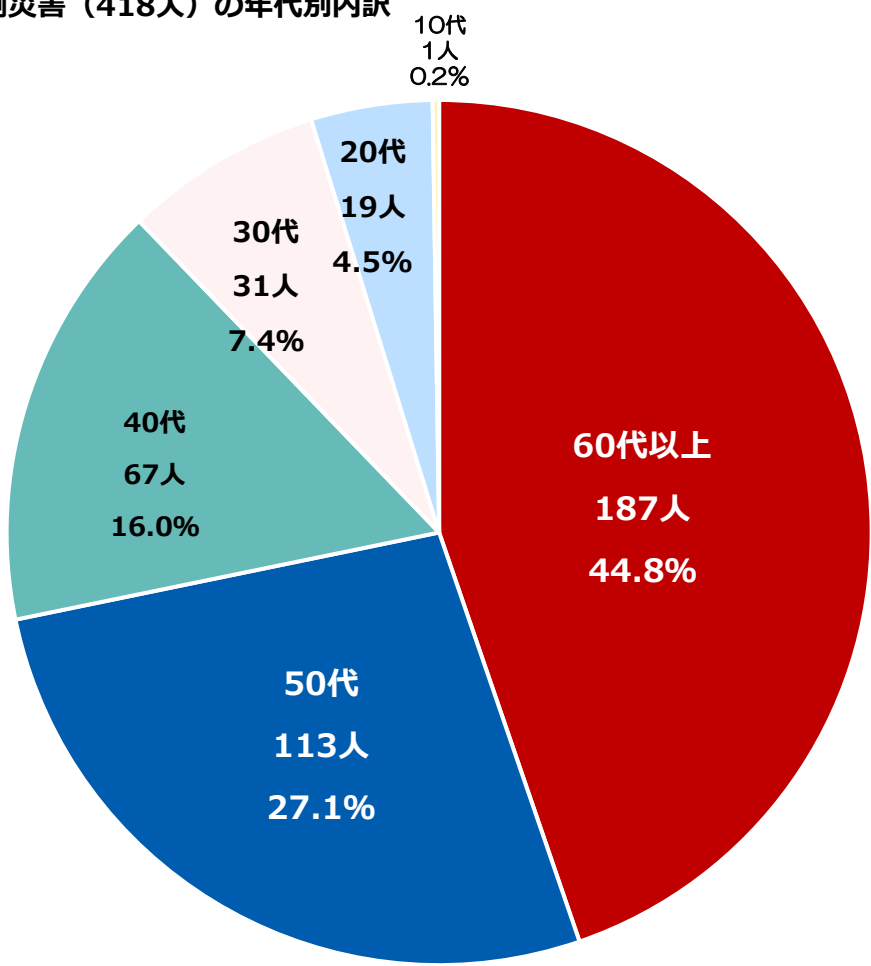
全産業における転倒災害の占める割合はいずれの年も2割以上となっている。

転倒災害の発生数と全体に占める割合(令和 7 年滋賀県)

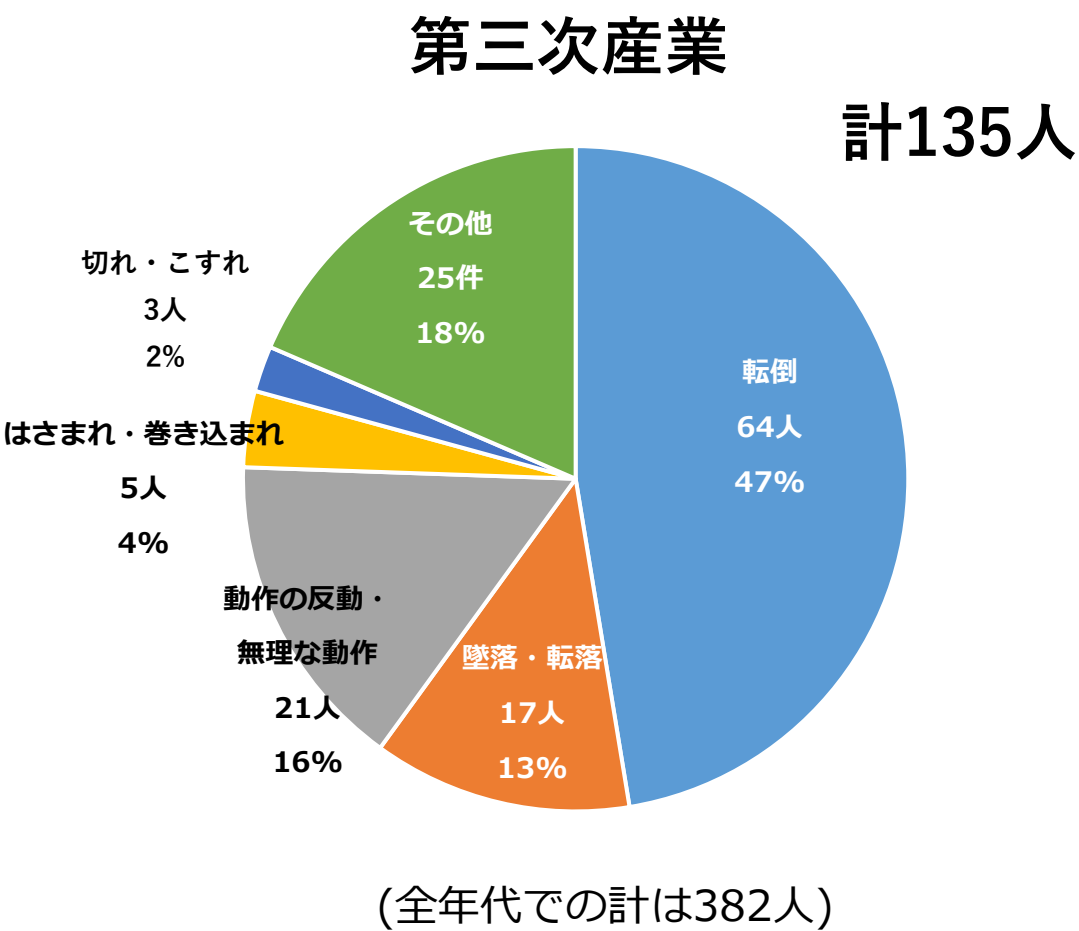
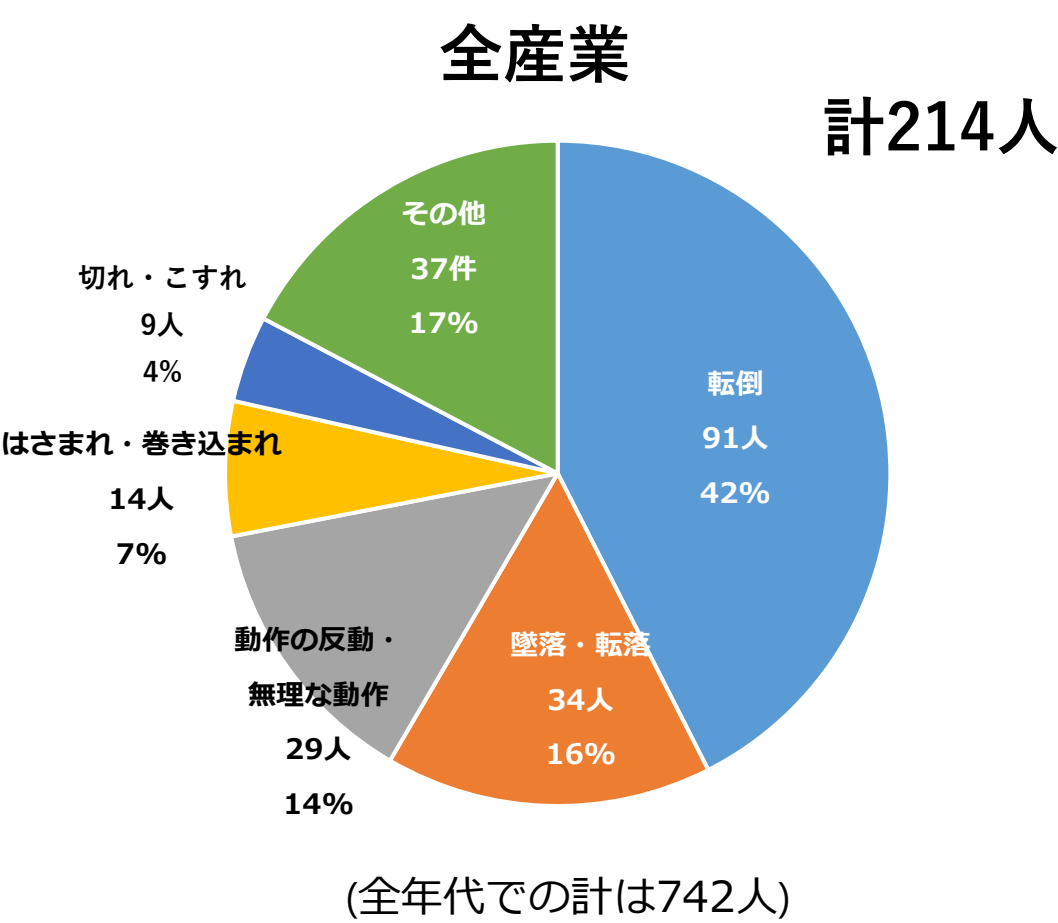
年代別災害発生数と転倒災害の割合



転倒災害（418人）の年代別内訳



60歳以上の労働災害の事故の型別（令和7年大津署管内）



年齢別労働災害の平均休業日数（令和7年大津署管内）

年代別の平均休業見込日数



年代別の平均休業見込日数(転倒)



ポイント

- ・令和7年の休業4日以上の災害発生数は、平成21年以降で最も多い状況であり、業種別にみると、第三次産業が占める割合が4割以上と最も高い。
- ・事故の型別にみると、転倒災害が最も多く、全体の約4分の1を占めている。さらに、小売業や社会福祉施設は、転倒災害の占める割合が全業種と比較して高くなる。
- ・年齢別の労働災害発生状況では、40代以上の割合が全体7割を超えており、60代以上だけでみても、小売業や社会福祉施設は3割を超えている。また40代以上は概ね年代が上がるにつれて、割合も高くなっている。
- ・年代が高くなるにつれ、全体における転倒災害の占める割合が高くなり、60代以上では概ね半数が転倒災害である。また、転倒災害では全体の4割以上を60代以上が占めている。
- ・60代、70代以上の転倒災害の平均休業見込日数は、45日以上となっており、他の事故の型も含めた平均休業見込日数よりも高い。